

小さく早く生まれた赤ちゃん

生まれた時の体重が2,500g未満の赤ちゃんを低出生体重児、1,500g未満を極低出生体重児、1,000g未満を超低出生体重児といいます。また、予定日より早く生まれ、ママのおなかのいた期間が37週未満の赤ちゃんを「早産児」といいます。さまざまなサポートを必要とする間、NICUやGCUに入院して治療をします。

NICU (新生児集中治療室)

早産児や低出生体重児、病気があるお子さんなどに対し、高度な治療を提供する場所。

GCU (新生児回復室)

NICUで治療を受け、状態が安定したお子さんに対し、引き続き治療を提供する場所。

小さく早く生まれた赤ちゃんは、体の機能が未熟な面もありますが、命を守る機器に助けられながら頑張っています。

心臓

心臓が未熟だったり、血管の構造が整っていないことがあります。

脳

血管にもろい部分があったり、血流調節が未熟だったりすることがあります。

肺

肺が膨らみにくく、呼吸が速かったり、酸素や呼吸器が必要になったりすることがあります。

血液

黄疸が進行しやすかったり、貧血になったりすることがあります。

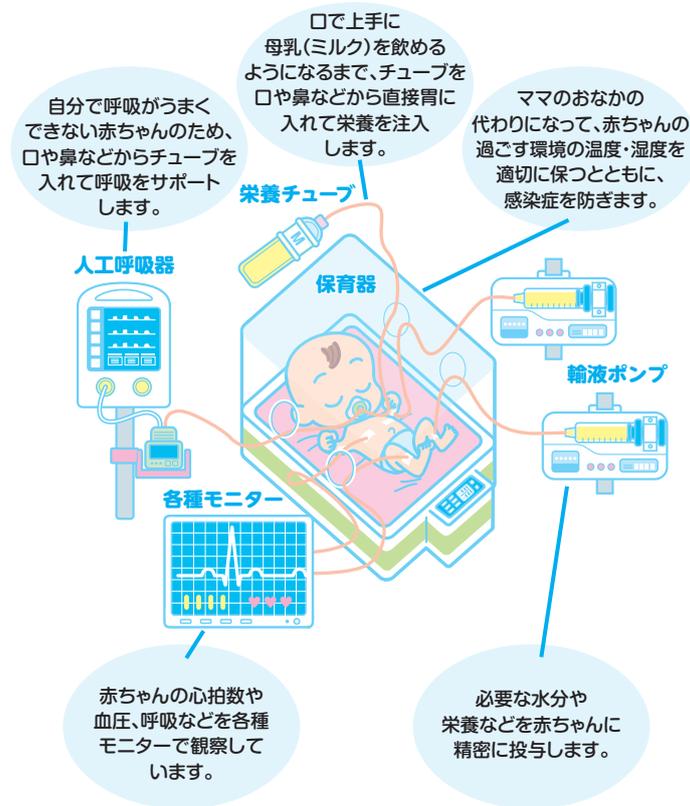
体温

体温調節が未熟で低体温になりやすいです。

感染

お母さんから十分に抗体をもらっていないため、感染に弱い傾向があります。

赤ちゃんの命を守る機器



治療を頑張る赤ちゃんを見るのがつらいことがあるかもしれませんが。不安なことや聞きたいことは、医師や看護師に話してみましょう。分かることで不安が軽くなることもあります。医療スタッフはあなたと赤ちゃんの応援団です。